

♪歌ごえ酒場の老舗『家路』を訪ねる♪

田中 積

トキは7月の27日。午後は7時集合と北村さんから実行委員のみなさんにメールが回る。9月に開催の関東アコーディオン演奏交流会のプログラムに広告を頂くためと実行委員の暑気払いのためです。

北村さんからのメールで6人がお店に来ることは予めわかっていました。指定の時間にお店に入ると、なんと広告責任者の北村さんと塚本実行委員長が既に座っておりまして。びっくりです、何も飲んでいないようです。お店には他にお客はおりません。「はいねー」「今着いた所ですよ」そんなやり取りをしながら、店の女主人“P子さん”に挨拶をする。とりあえずビールで乾杯！と飲み物を注文。つまみの枝豆で三人が乾杯の練習？する。一口目のビー



ルは旨いですね。
←参加した実行委員の仲間

私はアルコールに極めて弱いので、酔わないうちに広告の交渉に入ることにした。予め、葉書と電話で来店の日時を連絡しておいたので、交渉の内容はお店側に伝わっていました。窓口のP子さんに、北村さんが広告のサイズと版下と金額の確認をする。私の役目はそこまでの橋渡しです。安心して私はジョッキのビールを一気に飲み干していました。当然酔いも一気に回ります。

この店の料理は旨いので有名です。これは飲みすぎだ、とお腹のすいたのを感じたので旨い食べ物を注文します。呑み助の塚本さんは食べずに飲む方です。北村さんはそれほど飲むほうでもありませんし食べる方でもありません。やがて現れた

乙津さんももっぱら飲む方です。食べ物は私一人で平らげたようなものです。

そこえ、ふらりとかおなじみの客が一人現れました。まだ30代と思われる青年でした。その後別のグループのようですが4~5人来たのみで満席になる様子はありませんでした。(満席といっても30ぐらいでしょうか)

この店はカラオケならぬピアノの生オケです。初めに一人で現れた彼が歌いだします。歌うのが大好きな様子です。歌集は「ともしび」発行の歌集で各人に渡ります。だいぶ年季が入っていて、表紙のあちこちは千切れていたりしています。

そのはずです、一昨年でしたか30周年の記念を中野の「サンプラザ」で行なったのです。『よくぞ、30年も続けて来られたものだ』とお祝いに駆けつけた歌う仲間たちから感嘆の声が上がったものです。まさに、お店はP子さんの魅力と歌う仲間たちのうたを愛する気持ちが細々とでも支えてきたのでしょう。

歌集にない新しい歌は、パソコンからプロジェクターで壁に掛けたスクリーンに映し出されます。リクエストの多いリストが壁に張り出されています。観ると、1位は「ほたる」となっていました。「ホーホーほたる来い」ではないのです。「闇に白く、ほたる飛び交い…」変わったものだ、つい先ごろまでは「私の愛した街」がトップにいたものでした。

後から来た客が数曲歌い終わるとこちらにマイクが回ってきます。北村さんも、塚本さんも、カメラを持って現れた乙津さんもマイクを持って唄おうとしないのです。するとP子さんが「セキさん唄いなさい」

順位	曲名
1	ほたる
2	目黒
3	ほうせんか
4	夏の思い出
5	さくらんぼ

と強制的？な命令です。P 子さんには弱いので唄ったことなど無いのにもかかわらずマイクに向かいましたが、何を唄ったのか覚えていません。一気に酔いが回ってきたのでマイクを返して席に戻ると、なんと 1 万円札がドンとテーブルの上に乗っているではないですか、私はいつぺんに酔いが醒めた気になりました。

「北村さん、領収書を切ってこのお金おさめて」「あら、領収書無いわ」素人集団の集金業務でした。北村さんの名刺で仮領収書を書いてもらい、料理のため、めったにお客の方に顔を出さないマスターにお礼を言って、渡してもらいました。そうこうするうちに池田さん、築山さんも現れ予定していた 6 人が揃いました。改めて乾杯のし直しです。

お隣のお客のグループも人数が増えてだいぶ賑やかになりました。30 分ごとにピアノ演奏があります。またもや P さんからキツイ？コトバが飛んできます。「セキさん、アコの練習ですよ」「ハイ」素直にお店にあるホーナーの楽器を借りて冷や汗の演奏？する羽目になります。ピアノの音を頼りに探り弾きです。池田さんなどのいる前で、よく恥ずかしくも無く弾くものだと自分でも思いながらです。他のお客も「へただなあー」という顔をしながらも唄ってくれました。もちろんピアノの伴奏があるからです。

私達の仲間は何を飲んでいたのか忘れましたが、アルコールに弱い私は勢いに乗って「ウーロンハイ」！と言うと、私が弱い ↓ 伴奏に挑戦するセキさん



ことを知っている P さんが「えっセキさん大丈夫」と心配するほどでした。久しぶりに人前で、右手だけでもピアノについて弾いたので気分が高揚したのでしょうか。「セキさんうまくなったねえ」P さんのほめ殺しの一言、これがいけません。調子に乗って何曲か弾いたので、弱いはずの私はそれでもウーロンハイを飲んでしまったようです。

最後の締めはやはり池田さんのアコです。なんでも P 子さんの話によると、池田さんが学生時代からの顔なじみ、音楽仲間であったようです。私は知りませんが、渋谷に「カチューシャ」という店があって、そこから P 子さんとマスター（ベーシスト）が独立してこの店を開いたそうです。

実践的にアコを練習する早道は、このような不特定の客の前でアコを弾くことです。少々下手でも、（人前で弾くことをしないと上手くなりませんよ）と励ましてくれる店はありません。同じ新宿にある「ともしび」では飛び入りでアコを弾かせてはくれないでしょう。アコの弾き歌いに大いに利用すべき店、「家路」です。



上の写真は「家路」のスタッフ、P 子さんとご主人。実行委員会ニュースを見ながら「皆どんどん上手くなったね」と、P さんは演奏交流会を聴きに來ていたのです。旦那様は料理をつくりながらパソコンで選曲もと大忙しです。

★『家路』新宿区新宿 3-10-9 FBビル 2F
★Tel&Fax 03-3341-127

